

北播磨地域 景観資源データベース【小野市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
万勝寺川の歴史と文化	丘陵の水を集め加里川谷と呼ばれた谷奥から流れだしてくる万勝寺川は、加古川左岸に形成された河岸段丘に沿って蛇行しながら加古川へと注ぐ。上流部には行基または法道仙人を開祖とする古寺の萬勝寺が所在する。真言宗の寺院で、本尊は薬師如来である。本堂脇の阿弥陀堂には、県指定文化財の阿弥陀如来坐像が安置されている。また、長尾町には行基の開祖とされる雲光寺も所在する。長尾町と栄町にそれぞれ所在する熊野神社では、「ワライワライ」と呼ばれるお頭の行事が古式豊かに行われている。中流域の長尾町や天神町では川に井堰を設け、耕作の水源として利用している。その一部は王子町の大池まで送られており、その水路は長尾溝と呼ばれている。下流の垂井町近くなると川の水量が減る。これは、垂井町や大島町にある自然湧水に通じているからかもしれない。 このように、万勝寺川は、地域の歴史文化に深くかかわる景観資源となっている。 (出典：小野市HP)	●				小野市		●
加古川下流(小野市・加古川市 暮らし、文化伝え脈々と)	加古川の流れは、小野市下流において三木市と加古川市の三市境で美囊川と合流し、水量を増す。少し下った加古川大堰の完成で、上流の上荘橋一帯に広い水面ができ、レガッタの公認コースが開設され大会が催されている。大堰は平成元年3月、治水と農業・水道用水などの水需要増に応えるため、堰の長さは422m。また、東播磨工業地帯の発展に伴う工業用水源として、昭和41年、大堰の北西部に平荘湖、昭和57年には近くに権現湖が建設され、需要増に対応している。地域の生活を支える重要な水資源としての利用を通じて、ため池の景観がつけられてきた。 (出典：ふるさとの川紀行(神戸新聞総合出版センター発行))	●				小野市		
下東条地区の歴史景観	東条川は古くは端鹿川と呼ばれ、大阪の住吉神社領となっていた。その関係からか住吉神社をはじめ多くの神社が残されている。また、京都へと抜ける街道ともなっていたことから、室町時代には豊地域、屋口城、小田城などの城が築かれ、江戸時代には小田町を中心に街道筋に町並みが開けた。現在でも、各神社では古式豊かなまつりが行われている。特に、垣田神社や久保木町住吉神社では神輿と布団太鼓が巡行する御旅の行事が行われており、地域の歴史を感じさせる景観資源である。 (出典：小野市HP)			●	●	小野市(下東条地区)		●
こだまの森	こだまの森は、山に囲まれた自然溢れる丘陵地に整備された公園である。園内には散策路、アスレチック遊具、グランドゴルフなどの施設が整備され、高齢者から子どもまでが一緒になって楽しめる。散策道には、健康の小道、花の小道、冒険の小道の3つのコースが設けられている。また、グラウンドゴルフは2コース、16ホールが設けられ、人々に親しまれた憩いの拠点となっている。芝生広場の周囲には桜の木が立ち並び、春には花見が楽しめるなど、四季を通じて美しい自然環境を体感できる。 (出典：小野市HP、小野市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●				小野市万勝寺町1314他		●
船木南山古墳	船木南山古墳は、東条川中流左岸の段丘上に築造された古墳である。一辺約14mの方形を呈し、隅が突出することが確認された。その形態からすると弥生時代後半に山陰地方で盛行した四隅突出型墳丘墓の可能性が高く、その関係が注目される。平成元年に実施した発掘調査では、墳丘から木棺墓とともに二基の箱式石棺が確認されており、古代の歴史を感じさせる景観資源である。 (出典：古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2013.11.30))				●	小野市船木町		

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【小野市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
妙見塚古墳	妙見塚は、小野市内でも数少ない前方後円墳のひとつである。古墳時代中期頃の築造と考えられており、全長は約33.4m、周囲には幅約2.5mの堀がある。墳丘は二段で築かれ、周囲には円筒埴輪が確認されている。 東条川中流の右岸段丘上には100基あまりならなる船木・中番古墳群が存在しているが、農地開墾のために大部分が消滅し、現在は主墳の妙見塚および数基の円墳を残すのみとなっている。なお、昭和36年(1961)には22基の発掘調査が実施され、木棺直葬、横穴式石室、組合せ式石室、カマド塚など多様な埋葬形式が確認されている。妙見塚古墳は地域の歴史を感じさせる希少な景観資源となっている。 (出典:小野市HP、小野市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	小野市船木町北山		●
奥田家住宅	奥田家は代々農業を営み、小野藩の惣庄屋を務めた旧家である。住宅の外観は、長屋門が配され、主屋はこの地域に古くから見られる典型的な入母屋造、茅葺の葺きおろしであり、古式で素朴な外形を良く残している。 玄関を入って右手には庭に沿ってクチノマ、オクノマ、裏側に沿って土間側からナカノマ、ナンド、オクザシキと続き、六間取りとなっている。建築年代は、各部屋の指鴨居をはじめ、各部材の大きさや仕上げの丁寧さから見て、江戸中期末頃と推定されている。全体的に見ても大きな改変が無く、当初の姿を保っており、この地域における古民家の代表例といえる。市指定の文化財であり、兵庫県指定の民家百選にも選ばれている。 茅葺の建物は周囲の田園と相まって昔ながらの風景をつくりだしている。 (出典:小野市HP)	●	小野市中番町	民家百選(兵庫県)	●
六ヶ井堰及び円筒分水	六ヶ井円筒分水は、流れてくる用水を公平に配分する施設である。東条川下流部にあった6つの井堰が、昭和40年(1965)の洪水で被害を受け、統合して新しく六ヶ井頭首工が造られた。鴨川ダム(東条湖)の水は、東条川を経田し、六ヶ井頭首工で取水され、円筒分水によって6つの井堰の受益地へ公平に配分される。東条川右岸には、円筒分水で分けられた後、東条川の下をサイフォンでぐぐって送られる。地域の農業と田園景観を支える代表的な施設である。 (出典:小野市HP、兵庫県東播磨土地区画整理50年史)	●	小野市住吉町、久保木町		●
慶徳寺	慶徳寺は曹洞宗の寺院で、釈迦如来を本尊とする。開祖は春庭見芳(しゅんていけんぼう)和尚で、当初は八ヶ池周辺にあったとされている。話の上手の春庭見芳和尚の説法を聞き、人間に生まれ変わることができたという有名な龍の伝承の舞台となっている。現在も、お寺には龍がお礼として残した「龍のうろこ」が残されている。 本堂は入母屋造、本瓦葺の大きな建物で、その前には見芳和尚の手植えの木とされる市指定文化財のカヤの古木がある。また、境内の南側には同じく市指定文化財の大きな石造の五輪塔が置かれている。この塔は凝灰岩製で、各輪の正面には葉研彫による五大種子が雄渾に彫られているが、他の3面は種子の特異な露点となっている。基礎部の東面の左右には造立の趣旨と室町時代の応永25年(1418)の紀年銘が刻まれている。 慶徳寺は伝承とともに地域に親しまれ、大切に守られてきた地域のシンボルとなっている。 (出典:小野市HP)	●	小野市河合中町737		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【小野市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
かわいい快適の森	小野ハヶ池自然公園内のかわいい快適の森は、青野ヶ原台地の東端にあり、里山やため池、湿地等が一体の里山生態系が残されている。ここに表情豊かな全長4kmの散策道を設けている。尾根沿いには、アカマツ林、谷筋には樹高の高いコナラ林が生育しており、多様な動物や植物に出会えるほか、季節による変化が楽しめる。ため池や湿地では、数少なく水や湿地植物、鳥類や昆虫類も見られる。大塚山の泣き石など豊富な文化財にも恵まれ、林道沿いのモミジや門割山の果樹類などは、四季折々の変化を見せる。 (出典：小野市HP)	●	小野市河合中町942		●
旧大門廠舎	旧大門廠舎は、明治21年から軍馬の養成所となっていた場所に演習場として設けられた廠舎(馬屋)である。廠舎は東西にあつたとされ、それぞれ大門廠舎、高岡廠舎と呼ばれていた。廠舎の名前は現在も残っているものの、昭和になると全体が陸軍の演習地となったため、詳細は不明である。現在、料理屋となっている建物がその名残りともいわれている。	●	小野市復井町		
神戸電鉄粟生線加古川橋梁	加古川の流れば、加東市と小野市の境界付近で東条川と合流し、小野市中部では万願寺川と合流して水量を増す。万願寺川との合流付近には、神戸電鉄粟生線の加古川橋梁が架けられている。東側の2連は、明治時代に造られた鉄製の桁が今も使われている。一連は長さ約30m、幅約5mの規模で、両側には三角のトラスが設置されている。この形式のものは、イギリスから輸入され、全国の1200の鉄道で使われていたもので、当橋梁ものは大糸線(長野県)、水戸線(茨城県)で使われていたものが再利用されている。老朽化により撤去された一部は、播磨中央公園の歩道橋として再生されているが、今も加古川の雄大で豊かな清流の上の橋梁を鉄道が駆け抜ける姿は、地域の固有な景観資源となっている。		小野市粟生町		●
JR加古川線万願寺川橋梁	JR加古川線万願寺川橋梁は、大正2年(1913)の播州鉄道開通時に架けられた全長88mの鉄道橋梁で、加古川駅から16kmのところにあたる。川の中に3つの橋脚を建て、その上に鉄製の橋桁を渡している。長方形の切石を積んだ橋脚などは建設時のなごりをとどめており、地域の交通を支えてきた歴史を感じさせる固有な景観資源となっている。 (出典：加古川水系(国管理)の橋と堰(国土交通省 姫路河川国道事務所 小野出張所作成))	●	小野市阿形町、粟生町		●
あお陶遊館アルテ	あお陶遊館アルテは、JR・神戸電鉄粟生(あお)駅前に平成20年(2008)4月に竣工した。伝統工芸の陶芸が体験できる施設であるが、建物の外観はそれとは対照的なモダンな雰囲気を感じている。 (出典：小野市HP)	●	小野市粟生町		

※1: ①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2: ●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【小野市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
金鐘城遺跡広場	金鐘城は、青野ヶ原台地に築かれた中世の山城で、城主は播磨守護職であった赤松氏の有力な家臣、中村氏とされている。主郭の周囲には土塁をめぐらせ、台地が続く西側には幅20m、深さ9mの堀切、尾根には櫓を設け防備を固めていた。伝承によれば、城内に深い井戸があり、その水を「かねのつるべ」で汲み上げていたことから「金鐘城」という城名になったと云われている。平成12年(2000)には、史跡公園城の遺構とともに弥生時代中期後半頃の竪穴式住居が発見されている。また、当遺跡広場を含めて周囲は、「夢の森」として整備され、「金鐘城遺跡広場」としてオープンしている。また、当遺跡広場を囲む森の緑豊かな公園として散策道などが整備され、ローラーすべり台やアスレチック遊具なども楽しめる憩いの森となっている。城の周囲を囲む土塁や木橋、門、櫓などが復元され、往時の姿を思わせる景観が創出されている。また、城からの眺望が優れており、小野市内はもとより多可町、加東市、神戸市内の山々まで見渡すことができるほか、天候がよければ明石海峡大橋まで望むことができる。 (出典:小野市HP、小野市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	小野市昭和町 441-6		●
市場舟着場	山田川が加古川に合流する現在の万歳橋あたりは、江戸時代には加古川舟運の拠点となる舟着場となっていた。この舟着場を拠点として活躍したのが近藤家である。亀造の時に海運業へと乗りだし、高砂港から北は松前、西は長崎と大帆船を回航して交易を図り、日本でも有数の豪商になった。舟着場周辺は、「ハマシヨ」と呼ばれ、高瀬舟に使われた舟材を用いた倉庫などが残されており、かつて舟運が盛んだった頃の面影を残す景観資源となっている。 (出典:小野市HP)	●	小野市市場町		●
北播磨総合医療センター	北播磨総合医療センターは、三木、小野両市民病院の統合及び移転により、平成25年(2013)に現在の場所に新設された。北播磨地域の中核病院として先端医療が導入されており、コンセプトである「マグネットホスピタル」のもと、患者にとっても医療関係者にとっても魅力ある病院づくりが行われている。施設内には積極的に緑地が設けられ、またアートワークが設置されるなど、患者やスタッフに安らぎを与え、ストレス軽減につながる景観が創出されている。 第16回「人間サイズのまちづくり賞」まちなみ建築部門 奨励賞を受賞(兵庫県)している。 (出典:兵庫県HP、小野市HP)	●	小野市市場町 926-250		●
檜山古墳群	檜山古墳群は、大村坂から檜山町室山に至るゴルフ場内の丘陵台地上に分布する150基以上の円墳群であり、数基から10数基の支群に分かれている。「七ツ塚」と呼ばれている内の1基は、直径約40m、高さ約5mの大円墳で、古墳群の主墳と考えられる。昭和39年(1964)に実施された4基の発掘調査では、横穴式石室や組合せ式石棺などの主体部が確認され、刀、刀子、馬具、須恵器などの副葬品が出土している。当古墳群は、6世紀を中心として丘陵一体に集中して築かれた家族墓と考えられる。古代の家族構成と墓制を知るうえで大変貴重な古墳群であり、ゴルフ場の中ではあるが歴史的な雰囲気を感じることが出来る。 (出典:小野市HP)	●	小野市檜山町		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【小野市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
焼山古墳群	焼山古墳群は、かつては200基を超える大古墳群であったが、現在は10数基が残るのみである。県の史跡に指定されている4基の内、2基は帆立貝式古墳で、残りの2基は円墳である。昭和33年(1958)の発掘調査では、1つの墳丘に数基の木棺が埋葬されていたことが判明している。副葬品としては、玉、金環、刀、馬具、須恵器などがある。当古墳群は、6世紀代を中心として築かれた家族墓と考えられる。保存された墳丘は地域の歴史を感じさせる景観を創出している。また、古墳群が散在する焼山台地は、万勝寺川と山田川に挟まれた段丘上にあり、小野市街地を一望することができる。 (出典：小野市HP)	●	小野市二葉町		●
匠台公園 おのアクト	匠台公園体育館(おのアクト)は、なだらかな丘をコンセプトに、匠台公園と一体的に整備されている。直径54.7mのドーム屋根の中に、全体のボリュームから突出しないように小体育館が納められ、1階部分はドライエリアを挟んで芝生の丘の下に埋められている。 公園にはランニングコースが整備され、体育館とともに魅力ある景観づくりが行われている。周囲の山一面には桜が植栽されており、見応えのある花見が楽しめる。 第3回「人間サイズのまちづくり賞」建築部門を受賞(兵庫県)している。 (出典：兵庫県HP、小野市HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	小野市匠台77		●
阿弥陀堂の大クログガネモ子	阿弥陀堂の大クログガネモ子は、樹高8m、下部ほど太く幹周は3.30mあり、市の保存樹に指定されている。地表は根株が周りをしっかりと押さえたい安定感がある。樹肌は灰白色であるが、日差しが強いとき、また薄日のときは、密に詰まった樹冠の葉が黒々と黒く映る。阿弥陀堂とともに地域から大事に守られてきており、昔から変わらない堂々とした姿は、地域のランドマークとなっている。 (出典：ひょうごの巨樹・巨木100選(社団法人兵庫県林業会議、社団法人兵庫県治山林道協会 平成17年10月))	●	小野市神明町 253	ひょうごの巨樹・巨木100選(社)兵庫県林業会議、(社)兵庫県治山林道協会	●
神明神社	神明神社は、室町時代に伊勢神宮から下向して建社されたといわれている。社殿は伊勢神宮のように神明造の内宮と外宮の建物が並んで建っている。小野藩四代藩主一柳末栄公が寄進した神明鳥居もある。「小野の神明さん、火籠をくりやる。明けりや初春松飾り………」と唱われているように、当地方の年越しの行事として、市内はもちろんだ東播磨一円の人々が毎年大晦日になると神明神社に参拝し、神火をもらい受ける。その火で神棚に献燈し、新春を迎えるのである。その起源等については、今後の研究をまたねばならないが、ロクロによる火起しは、今もなお古式ゆたかに神職及び崇敬者によって受け継がれている。 (出典：小野市HP)	●	小野市神明町 477		●
小野市立好古館	小野市立好古館では、地域の歴史・地理・文化にまつわる様々な資料を収蔵展示している。館内実体験コーナーでは、昔の玩具で遊ぶことができ、ピテオコーナーは小野の歴史と風土を映像により紹介している。敷地内には茶室「柳風亭」があり、茶道を通して日本の伝統文化に触れながら、わび・さびといった閑寂でうるおいのある美が堪能できる。 内部は改装を行っているが、外観は小野小学校の講堂をそのまま利用している。講堂は昭和11年(1936)に建てられたもので、鉄骨で骨組みがなされ、屋根は切妻で、スレート瓦で葺かれていた。外観は洋風の様式が取り入れられており、上部を丸く切った窓、柱を模した玄関の装飾などにその特徴がみられる。県の景観形成重要建造物に指定された地域の重要な景観資源である。(平成18年度) (出典：兵庫県HP、小野市HP)	●	小野市西本町 477		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【小野市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふらさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
小野藩陣屋跡	小野藩は一柳家が代々藩主を務め、明治期まで地域の政治を行ってきた。小野藩陣屋跡は、現在の小野小学校から小野高等学校にかけての一角に築かれていた。小学校の門の横には陣屋跡を示す石碑があり、その範囲を知ることができる。 陣屋が築かれた場所は段丘の先端に位置し、東側には雁又池や北側を西に向かって流れ落ちる大池越水路が堀の役目を果たしていた。陣屋内には、公廓庁、御西御殿、御手丸御殿、御隠殿、武器庫、その北に位置する現在の小野高校の場所には藩校講正館、米蔵、演武場などが配置され、その北には武家屋敷が続く。東には南北約750mに亘り商人町(現在の小野商店街)がつけられていた。 今は陣屋関連のほとんどが姿を消しているが、地形や町の地割りにその面影が感じられる。陣屋跡の範囲には好古館や柳風亭(茶室)があり、歴史を感じる景観がつけられている。 (出典:小野市HP)	● ● ● ●	小野市西本町		●
奥田醤油店	奥田醤油店は、小野商店街の中に残る商家である。建物の土壁、格子、入口の板戸などに江戸時代末期から明治にかけての佇まいを良く残している。(個人商店のため中の見学は不可)	●	小野市上本町		
小野商店街	小野商店街は、小野藩が現在の小野小学校の場所に陣屋を構えた時、その西側に長さ約800mの道路を新たに設け、その両側に商家や町屋を配した陣屋町が原形となっている。現在では、商家や守り神として祀られた「愛宕神社」や憩いの場「サンパーク」のほか、商店街の活動拠点としてカフェや展示スペースを併設した市民参加型の複合施設「おの夢館」などが並んでいる。また、「陣屋まつり」をはじめとした地域の活性化イベントも実施している。 商店街の中にある井上家住宅は、江戸のたたずまいを今に伝える商家建物であり、黒川屋という屋号をもつ。(現在も商店で使用されており、原則的には非公開)	●	小野市本町		
旧芝本齒科	旧芝本齒科は、商店街筋から折れた横道筋に位置している。木造瓦葺きで、壁を板張りとした建物で、昭和初期の雰囲気が残っている。		小野市本町 334-3		
王塚古墳	王塚古墳は、加古川左岸段丘上に所在する王子古墳群の主墳であるが、周辺の古墳は、開発によりそのほとんどが消滅している。古墳時代中期(5世紀中頃)の築造で、年代規模においても市内の代表的な古墳といえる。昭和27年(1952)に発掘調査が実施され、直径45m、高さ7mの円墳で、周囲には幅約8m、深さ約1mの堀を有していたことがわかっている。主体部は竪穴式石室で、内部からは、鏡、甲、冑、鉄刀、三輪玉などの副葬品が出土し、武器や武具など甲冑類の豊かさから当地方の首長級の墳墓であると推測される。 王塚古墳は悠久の歴史を今に伝える景観資源である。 (出典:古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2013.11.30)、小野市HP)	●	小野市王子町		●
小野市伝統産業会館	小野市伝統産業会館は、昭和51年(1976)に通産省の伝統工芸品に指定された小野市の伝統産業である「播州そろばん」の振興と発展を図ることを目的に、昭和58年(1983)4月に開館した施設である。小野市の特産であるそろばん・鎌・家庭刃物・木工芸品・つり針などの展示と、各種資料を揃えるほか、そろばん玉の製造実演を行っており、地域の生活文化や産業の歴史を体感することができる。 (出典:小野市HP)	●	小野市王子町		

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【小野市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふらさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
小野まつり	小野まつりは、昭和53年から続く小野市最大のイベントであり、毎年8月中旬の土日に大池総合公園・小野市うるおい交流館エクラ他で開催され、夏の風物詩となっている。 初日には、「のど自慢大会」や小野市内6地区及び文化連盟により演じられる「市民 夏の夢舞台」、小野音頭・新小野小唄など伝統的な盆踊りを踊る「市民総踊り」、約5,000発の花火「ファイヤーファンタジア」などが行われる。2日目は、3,000人を超える踊り子が集結するダンスイベント「おの恋おどり」や子どもを対象とした物づくり体験等ができる「子ども広場」などが開催される。 小野まつりはボランティアを含めて多くの市民の参加により活気と賑わいのある催しとして定着しており、地域に親しまれた新たな文化景観資源となっている。 (出典:小野市HP、小野市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	小野市王子町、 中島町		●
旧浄谷公会堂	旧浄谷町公会堂は、昭和8年(1933)に建築された集会所である。スレート瓦葺、寄棟の板間の建物に、東側と南側にガラス戸を取り付けた座敷の建物を付属させている。壁はともに板壁で、板間建物の南側東香りに玄関を設け、その前には破風状の庇が付いている。 建物は浄土寺の門前に形成された集落の中にあり、隣に地藏堂が建っているなど、古くから地域に親しまれた存在であり、集落の景観を構成する要素の一つとなっている。	●	小野市浄谷町 1555-1		●
共進牧場	共進牧場は、昭和25年(1950)に設立し、昭和32年(1957)に浄谷町北部の山林を切り開き、16万坪の放牧農園と牛乳工場を建設した。播磨平原の丘陵地に広がる牧場には、牛乳工場のほかに牛舎やレストランが設けられている。50頭ものジャージー牛が放牧され、群れをなして草を食む姿を眺めることができる。牛との触れ合いも楽しむことができ、緑の草原一面にのどかな風景が広がっている。 (出典:小野市HP)	●	小野市浄谷町		●
きよたにいっぶぐ堂	きよたにいっぶぐ堂は、国宝浄土寺の前に立地している地産地消のコミュニティレストランである。 内部には4本の柱が立ち、梁の木材が組み合わさり、登り垂木を思わせるスギ板張りの屋根裏がよく見える。また、藪戸(しとみど)をイメージした黒い格子をはめて耐震強度を高めている。3面が床から軒梁までガラス張りとなっており、周囲の田園風景を見渡すことができる。 建物の高さは低く抑えられ、レストランの屋根は宝形造とするなど、浄土寺を意識した設計となっている。また、入口付近には赤い柱列を配しており、浄土寺浄土堂の意匠を感じさせるなど、周辺の景観との調和が図られている。 第14回「人間サイズのまちづくり賞」まちなみ建築部門 奨励賞を受賞(兵庫県)している。 (出典:兵庫県HP、兵庫県立丹波年輪の里HP、小野市HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	小野市浄谷町 3294-1		●
浄土寺	浄土寺の浄土堂は、鎌倉時代、建久年間(1192～1197)に重源上人が奈良の東大寺再建に用いた大仏様(天竺様)という技法によって建てられており、国宝に指定されている貴重な建物である。堂内には、国宝に指定された名仏師 快慶作の巨大な阿彌陀三尊立像がある。 堂には境内各所で桜が満開となり、浄土堂とともに雅な雰囲気醸し出す。また裏山には約1万株のあじさいが植えられており、四国八十八ヶ所めぐりができる林道も設けられ、江戸時代に作られた88体の地藏を巡ることができる。 (出典:小野市HP)	●	小野市浄谷町 2094		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【小野市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふらさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
ひまわりの丘公園	自然環境の中で年齢を問わず、一日中のんびりと憩える公園として平成14年(2002)4月21日にオープンした。国道175号沿いの丘陵地約8haが整備され、年間約70万人の来場者数を誇る。シンボルの「ひまわりの塔」からは、のどかな田園風景や夕日を眺めることができる。公園前の農地に、夏には市花である約34万本のひまわりが、秋にはコスモスが「花のじゅうたん」のように咲き誇る。花の小径には四季折々の花壇がつくられ、また大規模芝生広場はサッカーやレクリエーションなどのための多目的広場となっている。わんぱく広場には大型遊具を設置している。 (出典:小野市HP、小野市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	小野市浄谷町 1545-321	私の好きな兵庫のまちなみ100選(兵庫県)	●
敷地大塚古墳	敷地大塚古墳は、中段丘の先端部付近に所在する直径約60m、高さ5m以上の大円墳で、幅8～14mの堀がめぐらされている。昭和13年(1938)には土取りに伴い主体部の粘土郭が確認され、割竹形木棺が納められていた。主体部からは、7面の鏡や碧玉製の管玉やガラス玉が多数出土している。出土遺物等から、築造時期は古墳時代前期後半から中期前半と推測されている。古代の悠久の歴史を感じさせる景観資源である。 古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2013.11.30)	●	小野市敷地町		
きらら通り	きらら通りは、ライトアップされた県道三木中央粟線の銀杏並木である。平成14年(2002)から県道三木中央粟線の約1.2kmの区間に195基の照明灯を設置し、植栽帯のイチョウをライトアップしている。黄色を基調とした色とし、交差点には判別しやすいよう緑色のライトを配色しており、幻想的な光の演出を行っている。また、周辺農家や農作物への影響を考慮した明るさにしており、多くの市民が楽しめる配慮がなされている。光のプロムナードの鮮やかさが認められ、平成15年(2003)には「兵庫まちなみ100選」に選ばれた。多くの市民に支持され小野市のシンボルロードとして定着している。 (出典:小野市HP、小野市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	小野市敷地町、 浄谷町	兵庫まちなみ100選	●
広渡廃寺跡歴史公園	広渡廃寺跡歴史公園は、7世紀後半頃に建立された古代寺院跡である。東西両塔、金堂、講堂などが確認されており、奈良の薬師寺と同じ伽藍配置であったことが明らかとなっている。ガイダンスホールは史跡の北西角に位置しており、史跡より低い場所にあることから、史跡側から見たときに施設が必要以上に強調されないよう、景観に配慮して整備されている。歴史公園の一角には1/20の縮小伽藍模型などがあり、往時の姿を偲ぶことができる。また、史跡は基礎と呼ばれる建物の基礎が復元され、古代寺院のスケールを感じさせる景観が広がっている。 (出典:兵庫県HP)	●	小野市広渡町 304-1		●
おの桜つつみ回廊	おの桜つつみ回廊は、東条川の古川橋から加古川の合流地点を経て、加古川の左岸沿って整備されている。約4kmに渡って桜並木が続いており、5種類(染井吉野・大島・江戸彼岸・思川・八重紅枝垂)の桜が約650本植えられている。桜は上流から下流へと順番に開花するため、桜の花を長期間楽しむことができ、桜並木の下にはベンチなどが整備され、桜の季節になると河川敷や土手の芝生で花見を楽しむ人々で賑わう。堤防に沿って桜が延々と連なり、桜吹雪が舞う壮観な風景が広がっている。 (出典:小野市HP、小野市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	小野市古川町、 喜多町、高田町、住永町		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【小野市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
小野市うるおい交流館エクラ	小野市うるおい交流館エクラは、最大502名収容の本格的なホール、多目的に利用できるハートフルサロン、ダンスやバンド活動に利用できるスタジオなどを備え、ライフスタイルに合わせて様々な目的で利用することができる。 指定管理者であるNPO法人が中心となり、憩いの場としての喫茶スペースや交流スペースの運営、地域住民の活動発表や情報発信に積極的に取り組む、北播磨地域の市民活動の拠点として機能している。 ひまわりに見立てたガラス張りのハートフルサロンを中心に、里山をイメージしたホール棟、伝統工芸品の金物をイメージした屋根を持つ管理会議棟など、印象的で多様な表情を持っており、大池総合公園や総合体育館、図書館を含む文化・スポーツ・交流の拠点エリア・シンボルゾーンのシンボルとなっている。 第7回「人間サイズのまちづくり賞」建築部門を受賞(兵庫県)している。 (出典:兵庫県HP、小野市HP、小野市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	小野市中島町72		●
高山古墳群	高山古墳群を構成する古墳のうち、夫婦池古墳は直径約13m、高さ約3mの円墳で、現状は夫婦池内に所在するため、池に浮いたような状況にある。墳丘の周囲には、埴輪がめぐられ、主体部は不明であるが、古墳時代中期後半の築造と推測されている。当古墳の南側の中位段丘上には、11基の円墳からなる高山古墳群が所在している。主体部は木棺直葬で、1号墳では陶棺の存在が確認されている。 (出典:古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2013.11.30))	●	小野市久保木町		
菅田町のお堂	菅田町に所在する棧瓦葺、宝形造のお堂は、薬師如来像を本尊とすることから「薬師堂」と呼ばれている。本尊の脇には、日光、月光菩薩、十二神将、弘法大師像が祀られている。加東四国八十八箇所のお堂の78番札所「薬王子院」ともなっており、地域住民に親しまれている。	●	小野市菅田町		
山水荘	山水荘は、加古川を見下ろす小高い山の中腹にある木造瓦葺の建物である。第6代日本銀行総裁であった松尾臣善(しげよし)が明治40年(1907)に別荘として建築した。東京から大工を呼び寄せて仕事にあたらせたもので、明治末期の建築様式が採り入れられている。 現在この建物は料亭として活用されているが、庭に面した客間や居間の使っていた書齋が良好に残されており、往時の姿を伝える景観資源となっている。 (出典:広報おの(2013.2)、小野市観光協会、ハートにぐっと北播磨HP)	●	小野市阿形町487-2		●
男池(鴨池)	「男池(おいけ)」は鴨池とも呼ばれ、近くの「女池(めいけ)」とともに江戸時代に灌漑用として設けられた。男池一帯は昭和46年(1971)、播磨中部丘陵県立自然公園に指定されており、男池周辺には野鳥観察小屋やキャンプ場、グラウンド、小野ゴルフクラブなどがあり、一年を通して楽しむことができる。 冬季になると、男池にはシベリアの極寒を避けてカモの群れが飛来し、松林に囲まれた周囲4kmの水辺に群れが広がる。カモは9月頃から姿を見せはじめ、翌年3月まで滞在する。最盛期にはマガモやヒドリガモ、カルガモなど9種類、約1,500羽が群れる。 (出典:ひょうご風景100選 風と歩く(朝日新聞神戸支局)、兵庫百景 I (神戸新聞総合出版センター)、播磨のため池(神戸新聞総合出版センター)、小野市HP、小野市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	小野市来住町	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県) 風と歩く「ひょうご風景100選」(朝日新聞)	●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【小野市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
女池	女池にはコハクチョウが飛来するが、餌となるマコモが減り、その数も減少している。このため愛鳥家らは「きすみの野鳥を守る会」を結成し、餌付けとマコモ繁殖に取り組んでいる。 池に群れる渡り鳥や舞い降りるコハクチョウの優雅な姿は、この地域の固有な景観を特徴づけるものもあり、播磨に冬の訪れを告げる「冬の使者」として親しまれている。 (出典：ひょうご風景100選 風と歩く(朝日新聞神戸支局)、兵庫百景Ⅰ(神戸新聞総合出版センター)、播磨のため池(神戸新聞総合出版センター)、小野市HP、小野市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	小野市来住町	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県) 風と歩く「ひょうご風景100選」(朝日新聞)	●
小野アルプス	JR小野町駅から遠く西を望むと、緑の山並みが点在する住宅の間に見え隠れする。「小野アルプス」として親しまれる紅山連山の頂である。通称「小野富士」(惣山、198.9m)を挟む東西約14.7kmの小野アルプスは、地元愛好家が命名した。桜と紅葉の季節は登山者にも人気がある。 小野アルプスの最高峰、小野富士から見下ろす景色は、切り立った岩盤や加古川とその支流が悠々と流れ、晴れた日には明石海峡大橋や淡路島が望める自然のパノラマが広がっている。小野アルプスは、小野市榑垣町から「白雲谷温泉ゆびかま」で連なり、「紅山登山コース」「中コース」「東コース」と、いくつかの山歩きを楽しめるコースがある。初心者や家族連れでも気軽に登ることができ。 また周辺には「ひょうご豊かな森づくり構想」によって整備された里山林「きすみの見晴らしの森」が広がる。きすみの見晴らしの森には、3つの散策ルートがあり、歩くにつれて変化する自然豊かな景観を満喫できる。尾根沿いの整備された林道には、春にツツジが色鮮やかに咲く。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、小野市HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	小野市来住町	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県) 新日本歩道紀行100選(ふるさと道)	●
アンテナ山	通称「アンテナ山」と呼ばれ親しまれる紅山連山の一角である。春には上り坂を桜が彩る。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県))		小野市来住町	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	○
水谷山養父寺	水谷山養父寺は、聖徳太子が建立したとされる由緒ある寺である。本堂前に立つ花崗岩でつくられた九重層塔は、笠と相輪部の一部を欠くものの、市内では数少ない完成遺品である。笠は軸部造り付付式で、塔身の南面には貞和4年(1348)の紀年刻銘がある。本堂の左後方の山林中には石造五輪塔が並んで建っている。2基とも花崗岩製であり、右塔の基礎正面には康永3年(1344)の紀年刻銘がある。地藏石仏は、参道石階段の両脇に建っており、凝灰岩製の組合せ式石棺を再使用して、碑面に地藏立像を半肉彫りしている。画像は、比較的よく似ており、ともに室町中期頃の造立と推測されている。 このように、境内には多数の石造物が残されており、この地域の歴史文化的な景観を呈している。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、小野市HP)	●	小野市来住町 1099	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
岩倉2号墳	岩倉2号墳は、紅山山麓に点々と築かれた13基の円墳からなる岩倉古墳群のうちでも築造技術、規模、保存状況ともにごくれた古墳であり、紅山の登山道脇に所在する。直径15m、高さ3mの円墳で、小野市内で最大規模の横穴式石室を持っている。入口から玄室までは、長さ4.5m、幅1.6m、高さ1.2mの羨道(せんどう)が続いている。両袖式となる玄室(げんしつ)は長さ5m、幅2.5m、高さ3mで、奥壁、側壁はみごとに巨石が積まれ、特に天井石の大きさは圧巻である。玄室は死者を葬るための部屋で、当地を治めた有力者が葬られたと思われ、石室内に入ると築造当時の情景を思い浮かべることができる。 (出典：小野市HP)	●	小野市来住町		●

※1: ①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2: ●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【小野市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
勝手野古墳群	勝手野古墳群は、加古川市との境に位置する坊主山の山裾に所在する古墳群であり、11基の円墳で構成している。主体部は横穴式石室で、6世紀末から7世紀前半頃に造られたものである。一番最初に築かれた3号墳では、石室内に冢形石棺が置かれ、金銅製の馬具が出土している。また、6号墳の石室の前には装飾付須恵器と呼ばれる土器が二つ門柱ように立てられていた。この須恵器は、形態的には脚付き壺であるが、壺部に底が無く、胴部にはつば状のものが付けられている。このつばの上には、人物や動物を模した小像が並べられ、その形態から狩猟、相撲、求愛などのストーリーが想像されている。古代の歴史を知ることのできる貴重な景観資源である。 (出典：古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2013.11.30))	●	小野市黍田町		
白雲谷温泉ゆひか	白雲谷温泉ゆひかは、1,300mの深層から1億年を経て湧いたとされる温泉の湯を利用した日帰り入浴施設である。三木断層から湧出した源泉はカルシウム・ナトリウム塩化物低温泉であり、塩分を豊富に含み、保温効果に優れているとして人気を集めている。湯殿は、「水辺の湯」と「森の湯」、「福祉風呂」に分かれ、歩行湯や震湯、打たせ湯などがある。また露天風呂ではマイナスイオンを感じることができる。 建物は半地下になっており、周辺の景観を取り入れるように土で覆われ、木造フレームのアプローチが特徴的なアクセントとなっている。木や珪藻土等の自然素材を使い、自然と調和した癒しの空間がつけられている。 第6回「人間サイズのまちづくり賞」建築部門を受賞(兵庫県)している。 (出典：兵庫県HP、小野市HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	小野市黍田町 1000-1		●
やなせ苑と桜づつみ	やなせ苑は、加古川上流浄化センターの修景施設として整備された約7,000㎡の日本庭園である。浄化センターの処理水を利用した滝や噴水、とんぼ池、芝生広場等が整備され、春には周辺に咲く桜とともに日本情緒あふれる庭園美を演出している。浄化センター東側の加古川右岸の堤防約850mには、桜づつみとして35種280本の八重桜が植えられており、やなせ苑の桜が終わった4月下旬、赤に近い美しい桜絵巻を披露してくれる。 (出典：小野市HP、小野市観光協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●	小野市黍田町		●
境田池	境田池にはヨシが密集している。ヨシの群れは水質を浄化するだけでなく、水中の茎や根茎に付着する微生物や線虫、二ナノの類が群生に生息する稚魚や水生昆虫類の餌となっている。また、魚類をはじめ、水生昆虫類や鳥類の産卵場所であり、すみかでもあるヨシの群生は、生態系にとって重要な存在であるといえる。 周囲に水路が整備された平成2年(1990)頃から農業用には使われていないが、地域住民の手で管理が続けられ、美しい景観を保っている。 (出典：播磨のため池(神戸新聞総合出版センター))	●	小野市西脇町		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【小野市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
西脇町獅子舞	西脇町獅子舞は10月9日に行われる。起源・由来については、口伝では江戸時代に流行した厄病退散を祈願して奉納したものといわれている。昭和30年代初めごろまでは、曾宮と本祭りの2日間舞われていた。以前は若一(じゃくいち)神社の境内で行われ、西脇町の青年団によって継承されていたが、昭和48年(1973)以降は西脇獅子舞保存会が発足し、多くの観衆を収容するために西脇町グラウンドが会場となっている。 本祭り本番は約6m四方の演場がつくられる。獅子は二人立ちで、両脇には囃し子が2人立つ。舞に出る獅子頭は3頭で、2頭は大人用、1頭は子ども用である。舞の中でも「谷渡り舞」は見事である。2頭の獅子が左右から又状に組んだ高さ6mほどの梯子を舞いのぼり、その上で入れかわり、反対側へ降りていく。 江戸時代から続く伝統的な景観が地域住民により脈々と受け継がれている。 (出典:ひょうごの民俗芸能(神戸新聞総合出版センター発行)、小野市HP)	●	小野市西脇町		●
大龍寺	大龍寺は、曹洞宗の寺院で本尊は阿彌陀如来である。本堂へ上がる参道脇には六地藏の石椋仏が並んでいる。境内には小野市の指定木となっているクスノキの古木があり、本堂前のお堂には飛雲の台座に立つ青銅製の韋駄天立像が安置されている。また、境内南方には小野市の伝統産業の一つである握鉄(にぎりはさみ)を小野で初めて製造した盛町宗兵衛を顕彰し、嘉永2年(1849)に建立した「播州鉄鍛冶之祖碑」があり、伝統産業の歴史を今に伝える景観資源となっている。 (出典:小野市HP)	●	小野市西脇町 20		●
出水	出水は、三つの池からなる大規模な自然湧水である。池の内側には丸太組みがなされ、そこからこんこんと水が湧いている。澄んだ水で、どんな湯水時にも涸れたことはないという。水田の塞い水だけでなく、洗濯場としても日常から利用されている。また、西側の池の堤には、小野市の保存樹木に指定されているアカマヤナギの木もある。池の周りは大島出水公園として整備され、憩いの場としても親しまれている景観資源である。 (出典:小野市HP)	●	小野市大島町 518		●
小野・大部段丘	小野・大部段丘は、加古川左岸に形成された広大な段丘で、小野市の大部地区から小野地区にわたって広がっている。加古川に近い低位段丘は弥生時代に集落が営まれており、それが現在にまで続いている。低位段丘の東に広がる中位段丘は古墳時代に数多くの古墳が造られ、奈良時代には古代寺院の広渡廃寺跡が建立されている。その拠点として、高位段丘に建立されたのが浄土寺である。各段丘は広く、その境には高い段丘壁が存在することから、ダイナミックな地形となっている。また、段丘からの水が流れ出してくる谷地形や湧水などもみられる。谷地形にはそれぞれ溜池が設けられ、現在も重要な水源となっている。このように、段丘地形は古代から小野市域の人々の暮らしに深く影響しており、小野市の景観を特徴づけるベースとなっている。	●	小野市(大部地区、小野地区)		●
大住橋	大住橋は昭和61年(1986)に完成した加古川に架かる橋であり、両端の欄干に小野市の伝統産業である「そろばん」のモニュメントがはめ込まれている。そろばんのコマは「1986」を示しており、完成年度を刻んでいる。反対側は「204.8」となっており、橋の長さを示している。これらのモニュメントにより、ユニークな景観が創出されている。また、橋の上からは加古川の雄大な流れを望むことができる。 (出典:ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、小野市HP)	●	小野市下住町、大島町	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
※2:●印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【小野市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1 ① ② ③ ④	所在地	百選等の実績	景観シート※2
鯉溪神社	<p>鯉溪神社は、京都・八坂神社の流れをくんでおり、悪疫を払い安泰を祈願する「まど神事(歩射祭)」が鎌倉時代から伝えられている。当時は騎射神事であり、魔当株と呼ばれる7軒からそれぞれ男子1名が奉納したとされる。現在では株が廃止され、氏子の6地区が順番に受け持つ古式にのっとり施行している。1月2日の地起こしの儀に始まり、7日に射手7名は的を先頭に神社へ向かう。的は直径6尺(約180cm)の六角形で、黒と白とに塗りわけた同心円を描き、中心黒星は「鬼」の字を書いて塗りつぶしたものである。射手7名がこれを射る。</p> <p>神社の参道には200もの石灯籠が本堂近くまで並ぶ。うっそうとした森に囲まれた神社の静寂が、歴史ある地域の豊かさをうかがわせる。</p> <p>(出典:ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、小野市HP)</p>	●	小野市下来住 町661	ひょうごランドスケープ100景 (兵庫県)	●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。